

会 議 録

1 会議名

令和4年度第7回北諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・地域独自の予算の事業一覧について（公開）

【協議事項】

- ・地域活性化の方向性について（公開）

3 開催日時

令和5年3月2日（木）午後6時30分から午後7時55分

4 開催場所

上越市立北諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 高橋和彦（副会長）、大瀧修一、大館崇雄、澤海雄一、高橋礼子、中野洋子、松矢 茂、室岡由美子（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋和彦副会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：室岡委員、大館委員に依頼
- 議題【報告事項】地域独自の予算の事業一覧について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・資料No.1 「令和5年度地域独自の予算」に基づき説明

【高橋和彦副会長】

説明について、質疑を求める。

【澤海委員】

北諏訪区だけではなく、令和5年度の地域独自の予算の中で採択されなかった事業はどんなものがあるか伺いたい。

【中村センター長】

ソフト部分もあるものの、備品購入やハードが主な内容と認められるものは地域独自の予算としては認められないという状況であった。逆にそういう状況がわかっていたような事業においては、「提案の内容を検討いただきたい」旨をあらかじめ事務局のほうからお伝えした事業もある。そういうところでは、エントリーされなかったという事業もある。北諏訪区ではあまりなかったが、スポーツ団体等の練習にかかる部分、いわゆる、趣味の範疇になってしまうようなもの、サークル活動的なものも提案いただいたが駄目だったということもあった。また、経費として、賞品など個人の持ち物になってしまうものや、部活の備品関係は対象とはならないこととなった。

【大瀧修一委員】

区によって相当でこぼこがあって、均衡を逸しているという状況である。今までの配分額をオーバーしているところが3区ある。逆に半分以下になっているところが多いが、調整みたいなものは今回全くせず、対象となれば全部予算化することとなったのか。

【中村センター長】

そうである。対象として該当すれば、今までの各区に定められていた配分額がないので、今までの配分額より多かった区もあるし、逆に、対象と認められないと判断されてしまうような事業が多かった区などは、結果として少なくなってしまったという結果である。区ごとに配分額を決めていないことから、区ごとに金額に差が出たという形になる。

【大館委員】

昨年までの全体の予算が1億8千万円ということで半分ぐらいになっていると思うが、この配分については、いろいろ賛否両論あったのは事実である。この市の統一基準は、それに賛成される方もいた。ただ1億8千万円だから、昨年までの予算の半分になった

ということは、約9千万円が浮く形になったかもしれない。議会で予算を決めて余ったらそれを使い切らないといけないとか、いろいろあると思う。そのままプールしていてもいいが、もし、その9千万円があったとしたら、市民にどう還元するのか、その辺の見通しは、市のほうではあるのか。

【中村センター長】

説明させていただいたとおり、地域独自の予算として、9,413万円を議会に提案したという形になるもので、1億8千万円と比較して、約9千万円弱の予算が残ったという話ではない。あくまで、9,413万円を提案したという形である。

【高橋和彦副会長】

他に意見を求めるがなし

次に、【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・資料No.2「今後の北諏訪区地域協議会の活動・協議について」、資料No.3「北諏訪区地域活性化の方向性について出された意見【再整理】」に基づき説明

本日は地域活性化の方向性の作成に向け、これまで出された意見をもとに、構成要素の検討をしていただきたい。

前回の会議で、北諏訪まちづくり振興会が実施される住民アンケートの結果も参考にしているという意見があった。状況をお聞かせいただきながら、協議を進めていただければと思う。

【高橋和彦副会長】

澤海委員に、北諏訪まちづくり振興会が実施する住民アンケートの状況について、説明を求める。

【澤海委員】

住民アンケートは、2月25日締め切りで、26日以降、各町内で回収し、まちづくり振興会に届いているのが、8町内のうちの5町内である。5町内分を年代別に数だけ確認したところ、730名ぐらいの回答があった。当初、回答率は、3割まで行けばいいのではないかという意見もあったが、この結果を見ると、7割～8割近くの回答があるのではないかと考えている。これから大変だが、分析していきたいと思っている。そうした中で、この資料No.3にもあるようなご意見は当然多くあるが、10代の若い方からも、若いのにこんなことまで考えているのだというような意見もあって感動した。例

えば、「常々こんなに良いところなのに、どうして知名度が低いのだろうと思っていたから、今後はしっかりPRし、人々に愛される地域となるべきだと思います」というような意見である。アンケートの内容からは、何が良いのか詳しいところまで入り込めない。他にも「田園の景観がとても美しく、ここに住んでよかったと思えるため、田園写真集等を出版するのはどうでしょう」という前向きな意見もあった。この意見以外にも、ざっと見ると「ほぼ住みやすい」という回答が一番多い。やはり、印象としては、高齢者の男性は住みよい、女性は住みにくいという回答もあった。その辺は、また分析していかなくてはいけない。やはり、若い人が少なくなっている、子供が少なくなっている。小学校が複式化していつてなくなってしまうことが一番心配だということで、人口を増やすために、地域に住む人達がそこまでできるかというところが非常に大変なことだが、行政にも働きかけながら、やれることがあれば、仕組みを工夫して進めたい。車を運転することができるうちは、商業地も病院も近いので非常に住みやすいが、運転できなくなったり、免許を返納したりした場合に、公共交通機関がないので非常に住みにくいところだと思う。そういったことが、どんどん高齢化するに従って、みんなの問題になってくるだろうというのが意見で伺えると思った。山間地では、助け合いのバスを運行したりするだろうが、そのうちに北諏訪区も他人事ではなくなってくるようなことも、アンケートから見えてくるのではないかなと思っている。今後、まず基礎データを作って、それをいろいろ分析するような内容にしていきながら、できることとできないことが当然あるので、その辺を協議しながら進めていくのがいいのではないかなと思っている。

【中野委員】

今言われたことは、本当にもっともだと思う。高齢化になって、いろいろな催しもあるが、行きたくても、やはり車がないと遠すぎていけない。そうになると、行きたいのに行けないので、ひきこもりみたいな感じになって、結局高齢の方は、楽しみがなくなるころが一番ネックかと思う。

【澤海委員】

おっしゃるとおりだと思う。巡回の車を出すということは、この地域協議会でも、まちづくり振興会を設立する前にいろいろ議論したところである。ただ、この公民館の中に事務局を作るとなると、事務室が非常に狭く、せいぜい1人しか入れない。仮にバスを出すとする、車庫をどうするのかとか、運転手をどうするのかとか、確かにそうすればいいというのはわかるが、それに伴った財政的、人的、いろいろな手続き的なこと

で大変だということで断念した経緯がある。これが、もう少し大きな区であれば、やっているところがあるし、人的にも施設のにも整っていて可能なのだろうが、それをやるにはかなりの負担が生じてしまうというのが、当時の議論だった。今も変わっていないと思う。

それから、高齢者は確かにそうだが、アンケートを見ていくと、若い人たちの中に孤独を感じている人が多いように感じる。小学校を卒業してしまうと、なかなか集まる機会がなくなるということもあるのだろう。特に社会に出てしまった若い人たちが、会社から帰ってくると、一緒に遊ぶ人もいないし、遊ぶ場所もないということで、高齢者の問題だけではなくて、全体的にもうちょっと掘り下げていかないといけないのではないかと思う。全部見ているわけではないので、印象だけだがそんなことを感じた。

【高橋和彦副会長】

他に意見を求めるがなし。

次に、地域活性化の方向性の構成要素の検討に入る。資料No.3の意見の中で、構成要素に取り入れたほうが良いと思う内容、キーワードについて各自考えてこられたと思う。皆さんの意見を求める。

【大舘委員】

構成要素を考えるのはいいと思う。この地域協議会で考えるが、地域協議会では実行できない。誰かにやってもらうことを考えるのはいいが、どうなのか。絵に書いた餅にならないように、まちづくり振興会があるので、そこと連携していくということで考えるのが1点。考えてもいいが、人任せになってしまうというのが、どうなのかということがある。

2点目は、他区の地域活性化の方向性が出ているが、13区は、もともと一つの町村であって強いと思う。北諏訪区は上越市の中の北諏訪地区である。ただ、北諏訪区は団体がとても多いので、地域独自の予算の提案ができています。最初に副会長も言われたとおり、今、北諏訪で何ができるか、まちづくり振興会がアンケートをとっているようなことで検討していくと思うが、これを参考にして作成しても、誰かにお願いすることになる。

最後に、大潟区に行った時に、カレンダーがあった。今昔物語カレンダーといって、まちづくり団体が、写真を撮って作って配っているということで、カレンダーなら住民全体の家に還元できるなと思った。また、これも結局人頼みだが、JAさんのように写

真コンテストなどを企画したり、地域のいいところを募集したりして、カレンダーという形で作っているというのは参考意見である。ここで構成要素を考える上で、自分たちで動ければ自分たちの意見を出すか、人に頼むことを考えて、今ある団体をお願いすることを考えながら構成要素を考えるのか、その辺を皆さんどう思われているかお聞きしたい。

【松矢委員】

この地域活性化の方向性の目的として、最終的にどこで収まるのか。構成要素をあげて、それでおしまいなのか。その先どうするのが、少しはっきりしない。構成要素だけ挙げるのであれば、今までの意見をまとめればできると思うが、その先をどうするか。先がないと我々無責任な会議になるような気がするので、最後の方向性を決めてからスタートしたいと思う。

【高橋和彦副会長】

他区の構成要素が挙がっているが、正直に言わせていただくと、これは大体全国どこにでもあるような光景であり、そういった地域は、かなりあるのではないかと思う。先ほど事務局から説明された、キーワードでポンと一言で、これをやろうというような具体的なものにしていかないと、板倉区でも牧区でも三和区でも同じである。見方によっては、これをどう感じるかは、人の感情や感覚があるので、自分の地元の風景見ていいなと思う人もいれば、こんな田舎だなと思っている人もいると思う。余りにも大ざっぱ過ぎて、これを方向づけといっても、北諏訪区に置き換えた場合に、見えてこない。先ほど大館委員が言われたように、他の団体、組織等に事業をお願いするような形であれば、連携を図りながら、ポイントを掴みながら進めていくほうが、実現に近いのではないかと思う。北諏訪区構成要素は、具体的なキーワードで進めていったほうが良いと感じている。

他にどうか。

【室岡委員】

他区の地域活性化の方向性を見て、私が思ったのは、よく参考資料で合併前町村の例が出てくるが、北諏訪区と同じ旧上越市の地区の例も出していただきたい。ここと同じように予算もない、建物も施設もないし、助けてくれる職員もいらっしやらない、そういう区はどういう目標が掲げているのか教えていただきたいと思う。

【中村センター長】

いくつかの意見や質問をいただいたので、回答させていただきます。

室岡委員から、合併前上越市の15区の地域活性化の方向性を見せてほしいという意見いただいたが、15区の中で地域活性化の方向性が完成した区がまだない状況である。できているのは13区の5～6区である。北諏訪区を含めて6区を事務局で担当しているが、どこも今作成中だったり、協議中という状況である。

松矢委員からは、構成要素だけ作ればいいのかとのご質問だが、他区の例を見ていただくと、構成要素が5つほどある。それをさらに大まかにまとめたキャッチフレーズも作っていただくというのが地域活性化の方向性である。

大館委員からは、自分たちは実施主体にはなれないので、どうなのかというお話をいただいた。冒頭、資料No.2で説明させていただいたことと重なる部分もあるかもしれないが、事務局の考え方を説明させていただく。②の自主的審議事項については、協議が途中で止まっている状況である。こちらについては、地域の課題からテーマとして2つほどに絞っていただいているところである。地域活性化の方向性というのは、逆に地域の魅力、良さ、この辺りから地域を見つめ直していただいていると捉えている。なので、北諏訪の地域もしくはまちづくりを違う方向から見つめ直して、確かに実施主体にはならないが、こういうまちにしていくのに、実施していただく地域の団体、例えば、学校後援会とか、町内会長連絡協議会とか、TMTなどもある。実施が難しいとなれば、どうしてできないのか、どうしたらできるかというところを考えたり、意見交換しながら団体の後押し、支援をできればいいのかと考えている。自分たちが実施主体ではないから方向性を作れないという考え方もあるが、皆さんは、北諏訪区に住んでいる住民なので、北諏訪区の中でこういうまちづくりをし、まちを良くしていきたい、継続していきたいというようなところを、スローガンのようなものとして作っていただくというのが市のお願いである。

【大館委員】

北諏訪まちづくり振興会が出来たので、今の理屈はまだ通ると思うが、もし、まちづくり振興会がなかったら個々の団体をお願いするとか、その連携も含めて地域のまちづくりをどうしたらいいかというのもあると思うが、関わりがないと具現化は難しい。ランドデザインみたいなものは出すが、それを見てもものすごくカッコいいが、そのとおりに動いているかということ、なかなか動けないという現実があると思う。ただ、そこを連携するということは非常に大事なことで、それを目標にするのも1つかと思う。

【澤海委員】

先ほど、センター長から、まだ15区からは、まとまった区が出てきていないという話があった。これは、まさにそのとおりだと思う。例えば、地域支え合い事業の会議に行っても、組織として人的にある程度まとまっているのは、13区の人達である。15区の人達は、もう後継者がいなくて大変な問題である。行政で助けてほしいという意見が多い。社会福祉協議会の中での住民福祉会でも、やはり13区と15区では全く違う。15区がまとまらない。その現実を行政はよく見つめてほしいと思う。

【高橋和彦副会長】

他にどうか。

各自でお考えになられたキーワードでも文書でもあるかと思う。私は北諏訪の地域活性化の方向性について出された意見の中で、気になっているのが、学校コミュニティの桜を活かしたイベントができればいい。これは魅力があると思っている。

それと、交流促進の地区の運動会、発表会、雪まつりなどのイベントを実施してはどうか。それらしいものは今までやってきたが、地域として自分たちで準備をしてやってみる。そして、皆さんもうご存知だと思うが、この地域は、農家が多く上千原の町内では、2世帯に1世帯は農家だった。一方、若鷹の団地になると、北諏訪以外から来た方が結構いる。生活している中でも、もともと持っている考え方が違うと思う。そういった部分で、その影響というのは私も生活していて、かなりあると自覚している。そういったものを取り払ってしまうような交流を深める企画が必要なのではないか。TMTクラブきたすわとしても、そういったイベントを企画してやってきたが、結論から言うと、女性が来ないと子供が来てくれない。女性が来るイベントには、必ず子供が来てくれる。先ほど澤海委員がアンケートの集計をとっていただいた内容をお聞きすると、男性は出てくるが女性がなかなか出てきてくれない。そうすると、どんどん男性の意見ばかりが強くなって、女性がだんだん出にくい状況になる。そういったものが、結構影響受けるかと思う。この2点は実現に向けて、前向きに検討してみたらどうかと個人的に思っている。キーワードで言えば、まず、桜。もう一つが地域の皆さんとの交流を促進させるためのイベント。

【松矢委員】

私も意見の中に桜が結構入っていたり、それから飯田川という意見もあったので、そこをうまくつなげて、例えば、憩いの場を作ったり、それからウォーキングのコースを

ちゃんと作ったりいろいろな人が参加できるような環境整備も考えたらどうか。それから、若者が学校を卒業すると交流が全然なくなってしまうということで、若者が集えるような活動。将来的に北諏訪を背負ってくれるような人材を発掘する。そういった活動やイベントを考えてみてはどうか。それとイベントという話もあったが、今までの北諏訪の中のイベントで一番北諏訪らしいイベントと思ったのが、地区対抗の運動会である。住民のほとんどの方が出てくれて、対抗意識があるので非常に盛んになる。その時に初めて見る人もいっぱい顔が見られるので、ああいう感じのイベントをしたらいいと思う。各種の団体があって、団体と団体との横の繋がりや交流がなく独自に動いているような感じなので、うまく連携できればいい効果が出るのではないかな。まちづくり振興会がこの地域を背負っていく組織だと思うので、ここ何年かコロナの関係で活動が停滞しているが、これをもっと充実して活発化することによって、いろいろな活動ができていくのではないかという気がする。

【高橋和彦副会長】

澤海委員にお聞きしたいのだが、国の方針でコロナの規制も緩和されるが、まちづくり振興会として、今後どのような感じで進めていかれる予定か。

【澤海委員】

高橋副会長もTMTで長年活躍しておられるので、そういった組織を盛り上げるにはどうしたらいいか、或いは、どういった時に盛り上がってきたかよくおわかりだと思う。その視点で見ると、今のまちづくり振興会は、残念ながら盛り上がっているとは到底言えないと思う。北諏訪まちづくり振興会にも、趣旨や目的はあるが、それに沿った具体的に実行していくイベント、行事になると、まだ途上だから仕方ないが、力不足感は否めないというのが現実である。この地域協議会からの意見をいただいたり、また、これから理事会、評議員会もあるので、そうした中で、これからどうしていったらいいかということをもとめて、意見がまとまったらそれに向けて、みんなでやっていくような体制にならないと駄目だと思う。

私のほうから補足させていただくと、今出てきたさくらの小学校、これはアンケートの中でも、一番多いと思う。それから、飯田川とか妙高連山、田園の景観。こういったものを北諏訪は知名度がなくて、そういった魅力があるということを知らないから、例えば、安塚区は今、人口減少が一番激しくて、平野部に降りてきていると思うが、下りてくるなら北諏訪に来てほしいというような、北諏訪の魅力を発信していきたい。今後、

空き家、空き地がどんどん増えてくるので、そこをリニューアルして使えるような、そういう仕組みを地域の中で作れば、人口増まではいかななくても、減少を緩やかにすることは、もしかしたら可能かもしれない。こういったことに取り組むようなことがみんなできれば、具体的には一番いいのか思っている。

【高橋和彦副会長】

上越市の中に総合型地域スポーツクラブがある。安塚区ではNPO法人のスポーツクラブがある。そのこの理事の方の言葉だが、平成17年にスポーツに携わっていた人は、1,000人以上だった。しかし、今年度は構成員が50人程になった。すごく深刻だというお話を聞いており、今まで20も30もあったクラブが、今は4つか5つしかない。人口が減って、子供がいなくて他の地域と合同のチームにして大会に出ているとか、すごく大変な思いをされているとお聞きした。そういった地域もあるので、北諏訪はいいほうなのかと思った。確かに、澤海委員が言われたように、自然減で社会的な問題にもなっている少子化問題が、危機的状況にあるということで、北諏訪区も前回の国勢調査の結果を見ると28区の中で、ワースト3にはいる人口減少率なので、その辺に歯止めをかけたいと思うし、人がいなくなったら寂しい地域になるかと思うので、そういったこともしっかり考えながら進めていく必要があると思っている。

構成要素として、小学校がさくらの学校ということで、小学校や、その周辺の飯田川等を活かしたイベントの実施ができないか。これを、構成要素の1つとする。

また、今までコロナ禍の中で中止になっていた地区運動会。今まで小学校が主体で段取りをして、それに対して協力して実施していたが、コロナ禍によって学校は単独で実施している。今後どうなるのかまだ決まっていないが、地区の住民との交流にはこういった運動会等は欠かせないという意見があったので、地域の方々の交流促進のイベントの実施、やはり、人口を減らさないようにみんなで知恵を絞り合っていく。北諏訪区に住みたいと言っても、家を建てる土地がないとか、そういった物理的な原因もあるが、何とか北諏訪区の人口減少を少なくしようといった取組。これも当然、皆さんから知恵を出していただいて、長い目で見ながら、人口減少を抑えていきたいと思うので、これも構成要素に入れてはどうか。

他にどうか。

【大館委員】

今のでいいと思う。確かアンケート項目に、北諏訪区にある施設でクリーンセンター

とくるみ家族園が挙がっていた。集まれる場所が小学校か、あの辺しかないと思うので、もう少し地域の施設をいかしたものを入れたらよいのではないかと思います。

【高橋和彦副会長】

私の今の職場が名立区だが、ろばた館というお風呂の施設がある。話を聞くと、落語家のイベントを開催したりしている。今、大館委員が言われたようにくるみ家族園の中で外部から人を呼んで催し物をしたりするのも、すごく喜ばれると思う。ろばた館のイベントは、地域の方に喜ばれているので、やってみる価値はあると思う。ただ、市の施設なので事前にご了承いただかないといけないと思う。

【中村センター長】

くるみ家族園については市の建物だが、指定管理という方法で運営している。市の建物だが、アイデアや地域と協力してほしいということは言えると思うが、民間が主体となって運営しているので、市が方針決定できないという状況もある。

【室岡委員】

くるみ家族園のことだが、以前に地域交流応援隊で体操をするときに体育館を貸してくださいと言ったら、「地域の方なら無料で使ってください」と無料で貸していただいた。それ以降、コロナ禍は駄目だったが、施設としては、地域の人たちが使うのは歓迎すると思う。

【高橋和彦副会長】

くるみ家族園に話をお聞きして、地元として交流を図るために施設の利用を許可いただく感じで、お話する方向にしていければよいと思う。2月にろばた館でそば打ち体験をやっていた。30人定員で会費を徴収していたようだが、私もTMTのイベントで2、3回そば打ちを企画したが、好評いただいているし、その場で食べるのでおいしい。毎年やってもいい内容のイベントだと思っていた。くるみ家族園の施設を利用したイベント等も構成要素に入れていきたいと思う。

【大瀧修一委員】

北諏訪区には、子どもたち学校から帰ってきてから安心して遊べる場所がない。くるみ家族園を一つの利用方法とするのもいいのかと思う。学校のステージのようになっている部屋があるし、また、茶席ができるようなところもある。施設を作るときに、北諏訪区に何も無いから、地域の人ができるような福祉の施設を作ろうということで、福祉課が担当していた。だから、福祉関係で利用できるような形になっている。最初の

頃は、外はゲートボール場と池を作って鯉を入れたりしていたし、子どもが遊べる遊具も作ってあった。ただ、制約があって木をできるだけ切らないようにということで、木をいかしたために遊ぶ場所は少なかったので、子どもたちの利用できる場所が少なかった。そういったものが規制緩和になっていけば、場所を整備して、子どもたちが安心して遊べるのではないかと思うので、そういう利用も検討してもらいたいと思う。

【高橋和彦副会長】

くるみ家族園の利用に関しては、皆さんから個々の意見をお聞きしながら、一つでも多く取り入れられるようにしたいと思っている。

【澤海委員】

アンケートの中に結構多かったような印象があるのだが、水害の多い地区がある。その地区の人たちは、それで住みにくいという意見がある。災害のない安全・安心のまちというキャッチフレーズで、そのための取組を消防団や防災士会と連携しながら検討するのもいいのではないかと思った。

【高橋和彦副会長】

毎年のことだが、水害で水位が上がる場所は大体決まっている。順番も決まっている。消防団に入っている方はまたここかという感じで、毎年のように出動されていると思う。毎年水害に遭われている方にすれば、もううんざりだと思う。また今年もか、何とかしてほしいなど。ただ、これは、北諏訪区だけで解決できる問題ではないとは思いますが、安全で安心して暮らせる地区にしていくためには、そういったものに対しても、しっかりと地域住民の安全を守る、財産を守るといったことに取り組んでいくことは必要だと思うし、北諏訪区の消防団や北諏訪まちづくり振興会の中で防災士の資格を持っている人がいるので、そういう人の知識をお借りして、水害に恐れなくていい地域にしていく必要性はあると思う。市の方ともいろいろ話し合いをして、水害の少ない地域にしていくのは必要かと思う。これも、構成要素の中に入れさせていただきたいと思う。

他に意見を求めるがなし。

それでは、構成要素として、くるみ家族園の利用と、この地区の安全・安心のまちを維持するために水害等の対策の2点を加えさせていただいて、合計5項目で構成要素とさせていただきたいと思う。皆さんからご発言いただいた内容を踏まえ、構成要素をどうするかという部分は、資料No.2の作成後、地域活性化の方向性の協議の中で出された意見等の実現に向けた対応ということで、こういったものを今後、実施団体とか実現の

時期とか、どうしたら実現が可能かと、そういったものを皆さんと協議していく必要あると思う。

それでは、今日出された意見協議を踏まえて、事務局から案として整理してもらい次回決定することとする。また、次回は、表題も併せて検討することとする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

次回の協議会については、4月中旬以降の開催を考えている。日程については、会長と相談して調整させていただき、日程が決まり次第、開催案内を送らせていただく。

【高橋和彦副会長】

委員の皆さんから他に質疑等を求める。

【松矢委員】

次回は、構成要素を具体的に進めていくということという会議になるのか。

【小川係長】

今ほど出していただいた意見をもとに、事務局案として、構成要素を整理して示させていただきたいと思う。それを見ていただきながら、最終的に決めていただきたいと思う。

【澤海委員】

1つ要望だが、例えば、今の5項目だとすると、例えば、小学校と運動会を一緒にやるということになると、教育委員会とか小学校にある程度こういう意見があると伝えたり、地域の空き家とかそういったところに人口誘致をするときに、市街化調整区域が関係出てくるかどうか分からないがそういったことや、或いは、それに関連した住宅のリフォームとかに関する関係機関への話を通りやすくする手助けとか、水害防止ということになると、飯田川改修に繋がってくると思う。そういったことについても、少しバックアップしていただけるようお願いできれば、大変前に進むのかと思う。

【中村センター長】

構成要素は、こういうまちづくりをしたいとか、こういうことを継続していききたいとか、こういうことをやってみたいという、方向性として定めていただくことは可能だと思う。それを担保するための施策について、実現のお約束はできないと思う。書いてあることによって、何か約束が守られるというようなものではないので、こういうまちであつたらいいなという形で作っていただければありがたい。

【澤海委員】

この案は、新しい市長のもとでの新たな地域独自の予算になってくるわけだから、そのところで、やはり何がしかの応援は、あつてしかるべきかと思う。

【中村センター長】

1年ほど前に資料で示させていただいたが、市の施策に反するものでなければ、方向性として定めていただいて差し支えないという話もあったので、その辺りもふまえて事務局案にまとめてみたいと思う。

【室岡委員】

今出たスローガンのようなものを、もう少し具体的に進めていって、来年度の予算をつけてもらうために話を進めたらどうか。

【高橋和彦副会長】

いろいろなところとお話をして、すぐ進められるものは進めていきたいと思うし、また、そこに対して予算づけをして実現できるように進めていきたいと思っている。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。